

英米文化学会会報

第 61 号

平成 16 年 10 月 20 日版



軽井沢で開かれた第 22 回大会風景

目次

- 第 115 回例会開催のお知らせ
- 例会研究発表レジュメ
- 第 116 回例会発表者の募集
- 『英米文化』投稿希望者へのご案内
- 事務局からのお知らせ

英米文化学会第 115 回例会開催のお知らせ

表記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席ください。

日時：平成 16 年 11 月 13 日(土) 午後 3 時～午後 6 時 10 分 午後 2 時 30 分受付開始
場所：法政大学 (市ヶ谷) 55 号館(正門の正面)5 階 552 教室 (JR 中央線市ヶ谷駅徒歩
5 分、飯田橋駅徒歩 5 分、地下鉄有楽町線市ヶ谷駅徒歩 5 分)

当日会費：100 円

懇親会：午後 6 時 30 分～ 8 時 30 分 会場 教員食堂(55 号館 2 階)

会費：3000 円 懇親会のみへの参加も歓迎いたします

< 研究発表 >

1. ジョン・スタインベックの動物観

(15 : 00 -- 15 : 35)

発表 山内 圭 (新見公立短期大学)

- 司会 山根正弘 (創価大学)
2. 十九世紀末英国における絶滅した動物への関心と社会進化論 - H・G・ウェルズの「エピオルニス島の島」を手がかりに - (15:35 16:10)
発表 橋本順光 (横浜国立大学)
- 司会 小林正弘 (千葉工業大学)
3. ハーマイオニの聖女性 (16:10 16:45)
発表 大久珠緒 (城西大学)
- 司会 木原文子 (明治学院大学)
- 小休止(16:45 16:55)
4. 1950年代と現代のカントリーソングの歌詞比較 (16:55 17:30)
発表 田中健二 (摂南大学)
- 司会 三井敏郎 (相模女子大学)
5. 1950年代のアメリカにおける新しい自画像
フォークソング・リバイバル運動とレッドベリーの「グッドナイト・アイリーン」を中心に (17:30 18:05)
発表 三井敏郎 (相模女子大学)
- 司会 田中健二 (摂南大学)

研究発表レジュメ

1. ジョン・スタインベックの動物観

山内 圭 (新見公立短期大学)

スタインベックは、スタンフォード大学在学時には生物学も学び、生物学者エドワード・リケッツとの親交もあり、生物に対して深い関心を持っていた。作品中の動物の描写にも、動物への深い関心及び知識が随所に表れている。短編「贈り物」「オオカミの群れが教頭先生を食べたとき」、長編『怒りの葡萄』などの作品に見られる動物描写に焦点を当て、それらの描写に見られるスタインベックの動物観を探る。

2. 九世紀末英国における絶滅した動物への関心と社会進化論 - H・G・ウェルズの「エピオルニス島の島」を手がかりに -

橋本順光 (横浜国立大学)

H・G・ウェルズの短編「エピオルニス島の島」(1894)は、絶滅した生物に対する世紀転換期における英国の関心について格好の例を提供してくれている。かつてマダガスカルに棲息し、怪鳥ロックのモデルになったともいわれる *Aepyornis* の発見について、同時代の驚愕と興奮をまず紹介し、次に、化石蒐集熱と古生物学の隆盛について概説する。その知見が本短編においてどのように援用されているか、本文を引用しながら指摘する。第三に「エピオルニス島の島」が、英国における捕囚物語の系譜に連なることに注目する。具体的には、マダガスカルで原住民の奴隷だった Robert Drury の日記と比較する。この三つの考察を通して、ウェルズのエピオルニスへの関心は、彼が後に展開する社会進化論と地続きであり、さらには「白人男性」を中心にする階層秩序が深刻に揺れ動いていた当時の思潮と切り離せないことを明らかにする。

3. ハーマイオニの聖女性

大久珠緒 (城西大学)

『冬物語』に登場するハーマイオニは、夫レオンティーズによる突然の嫉妬に苛まれる。この芝居の前半には悲劇性が漂う「冬」のイメージが広がっているが、16年の歳月を経て、祝祭シーンの後には事態が大団円へと向かう「春」のイメージが広がる。この展開の鍵を

握る人物の一人がハーマイオニである。彼女は芝居の前半では雄弁な女性であるが、妻に対するレオンティーズの疑惑を晴らそうとする彼女の努力は、夫の怒りを強めるだけである。しかし、後半では一言も言葉を発することなく、彫像台から降りるだけのわずかな肉体の動きだけで、夫に懺悔をもたらす。夫の嫉妬という同じテーマを持ちながら、悲劇となる『オセロ』と、幸福感に満ちた結末になる『冬物語』とは、作品のベクトルはまったく異なる。ハーマイオニの中には、エリザベス朝に存在した強力な父権制社会を包み込むような寛大さがある。『冬物語』が上演された時にはすでにジェームズ朝となっており、このハーマイオニの中にエリザベス世の影を感じ取る解釈もある。シェイクスピア作品には珍しく、男性の上位に立って芝居を明るく結末へと導いていく女性であるハーマイオニの特性について、他のシェイクスピア作品を交えて考察する。

4. 1950年代と現代のカントリーソングの歌詞比較

田中健二 (摂南大学)

1950年代に活躍したカントリー歌手 Hank Williams, Lefty Frizzell, Eddy Arnold, Patsy Cline の歌詞 33,000 語(250 曲)と現代のカントリー歌手 Garth Brooks, Dwight Yoakam, George Strait, Shania Twain, Mary-Chapin Carpenter の歌詞 33,000 語(250 曲)を語彙の面から比較考察する。1950年代に好まれた語(高頻度使用語)は、半世紀すぎた現代でどのように使用されているか、コンピュータで使用頻度とその使用実態を調べる。これにより 50 年という、時の経過が語彙使用にどのように影響しているかを計量的に明らかにする。さらに歌詞の中で身体の中のどの部分に注目されているのかを調べていく。そしてその点に関して 50 年前と現代を比較していくことにする。

5. 1950年代のアメリカにおける新しい自画像

フォークソング・リバイバル運動とレッドベリーの「グッドナイト・アイリーン」を中心に

三井敏朗 (相模女子大学)

1950年代にアメリカで起きたフォークソング・リバイバル運動に黒人歌手レッドベリーが与えた影響について、文化の融合という視点から考察する。この運動は世紀転換期やそれ以前に歌われた古い民謡を発掘していこうというもので、プロの作曲家たちが作った商業的な音楽に対するアンチテーゼとして始まり、やがて公民権運動やコミュニスト運動などの社会活動に影響を与えた。リバイバルを支えたのは中流家庭の若い世代であり、彼らにとって鉄道労働者や放浪者、黒人奴隷の歌は、現在目にしているのとは違うもう一つのアメリカの姿を示してくれるものだった。彼らはさまざまな価値観の出現で混乱するアメリカ社会をまとめ上げる新しいイメージを求めていたのだ。これらの先がけとなったのがレッドベリーだ。彼の歌った「グッドナイト・アイリーン」は、黒人社会だけではなく全米での大ヒットとなった。一連のリバイバル運動は、後にジョン・パエズ、ボブ・ディランらを生み出し、やがて黒人文化と白人文化の融合であるロック・ミュージックの全盛へとつながっていく。ポピュラー文化における融合の第一歩を、このフォーク・リバイバル運動に見ていく。

英米文化学会第 116 回例会発表者募集

第 116 回例会は平成 17 年 3 月 12 日(土)、日大歯学部(予定)で開催されます。研究発表のお申し込みは、研究発表題名、レジュメ(四百字以内)にご氏名と所属を明記し、メールでお送りください。発表申し込みの締切日は平成 17 年 1 月 12 日です。

発表申し込み先：例会担当理事 小林 弘 E-mail: HiroshiKobayashi@SES-online.jp
〒395 - 1145 所沢市山口 775 - 16 Tel 042-2925-3658 携帯 090 - 5805 - 6289

『英米文化』投稿希望者へのご案内

『英米文化』第35号の投稿締め切りは10月31日です。投稿規定は『英米文化』第34号をご覧ください。新入会員で投稿規定が必要な方は事務局までお申し込み下さい。Eメールまたはファックスにてお送り致します。その他投稿に関してのご質問は学術担当の上野和子理事（KazukoJeno@SES-online.jp tel:03-3425-4678 Fax:03-3425-4944 〒154 0017 東京都世田谷区世田谷 3-22-21）までお寄せ下さい。

事務局からのお知らせ

学会編著の書籍について

学会による出版が最近増加しております。出版されますと、在籍している会員には、無料で送付される規定になっており、事務局での在庫が続く限り、新入会員にもお渡しすることにしております。この為、最近オンラインでご入会の会員には、書籍をお渡しするチャンスが無い状態です。また、事務局の不手際から、例会・大会でご来場のうえご入会いただきました会員にお渡しできなかった場合もございます。

事務局といたしましては、会員の皆様に出版物を出来る限りお渡ししたいと考えておりますので、上記に該当する会員がおられましたら、ご遠慮なく事務局までお知らせください。受け渡し方法を調整いたしまして、お手元に届くよう努力いたします。在庫切れの書籍についてはご宥恕いただきたく思います。

非常勤講師・常勤募集のお知らせについて

先般、メールにてお知らせいたしました。非常勤講師の募集のご相談をお受けした場合には、事務局にご登録いただいた会員のみ情報をお伝えする方式に切り替えております。フルタイムがらみのお話は、お邪魔の場合も多いとは存じますが、メール到達会員全員にお知らせという方式を取らせていただいております。登録希望者は、専門などの指定があった場合に、先方に知らせてよい情報を当方までメール本文に入れて、HaruoSato@SES-online.jp までお知らせください。該当する情報がありましたらメールさせていただきます。

財務からのお願い

年度内の会費納入にご協力下さい。平成16年度会費未納の方は、以前にお送り致しました郵便振替用紙か、郵便局備付けの振替用紙にて納入をお願い致します。ご不明な点は財務担当の大東（ShunichiDaito@SES-online.jp）までお寄せ下さい。なお、年会費は5,000円です。

口座番号：00160-7-611777 加入者名：英米文化学会

会員の動き

【新入会員】

省略

【住所の変更など】

省略

英米文化学会会報 第61号

編集/発行：英米文化学会

編集責任者：石山伊佐夫

〒224-0028 横浜市都筑区大榎西 3-3-1001

045-592-6570

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: HaruoSato@SES-online.jp

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>